

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-2-6 生活支援の確保
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	地域福祉課長 石橋 達也	電話番号	0852-22-6822
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	子どもの貧困対策推進費		
目的	(1) 対象	「子どもの貧困対策の推進に関する法律」第9条に基づき策定した県計画の進行管理のために設ける、有識者会議の開催経費	
	(2) 意図	貧困状態にある子どもの発見、支援に向けた体制の充実・強化を図る。	
事業概要	民間有識者等によって構成する「子どものセーフティネット推進委員会（仮称）」を設置し、県計画の実施状況を評価し、推進上の課題について協議する。		

2. 成果参考指標

(1)	指標名	子どもの貧困対策に係る支援体制を整備した市町村の数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	県が定める目安に照らし、支援体制の点検・整備を行った市町村の数	目標値				
			実績値						
			達成率						%
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値						
			実績値						
			達成率						%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)		257
うち一般財源(千円)		257

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤H27新規
---------------------	--------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度末に策定した「子どものセーフティネット推進計画」では、「子どもの貧困について、問題発見や介入に困難がある」「個々の世帯の状況に応じ、多方面にわたる制度をうまく組み合わせて提供することが必要」という課題が確認されている。これを受けて、計画では「発見から保護・支援につなぐ体制の整備」を基本方針の一つとしており、その早急な実現が必要である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

H27新規事業

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
「発見から保護・支援につなぐ体制」が確立していない。
このため、各市町村において適切な体制が取られるよう促す必要がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
「子どもの貧困」は比較的新しい政策課題であり、「発見から保護・支援につなぐ」ことについて、どのように取り組むのかが明確になっていない。
- ③原因を解消するための「課題」
「発見から保護・支援につなぐ体制」について、県において取組の方向性を整理する。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

市町村に方向性を示した上で、現在の体制の点検や整備を依頼する。方向性については、法令や国の通知に根拠があるものなど、各市町村で共通した取り組めるものとする。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）